

# 金子耕弼の **その6** ファミリー・トーク

北海道と沖縄県にて放送中!!



## 心の絆

あるお父さんから聞いた話です。

日頃、忙しすぎて子どもと親しい関係ができていないことに気付いた彼は、息子の晃君が所属しているサッカーチームの試合を、初めて見に行ったそうです。彼は、自分の息子が華麗なシュートを決めるのを期待して行ったのですが、その日は、まずいプレーとミスの連続でした。コーチは、地区の優勝がかかった試合だけに、子どもたちが思い通りの動きを見せてくれないことにいらだちを隠せずにいました。晃君は、せっかくながら父親が見ている試合なので、いいところを見せたかったのに、かえって体がこわばって、「こぞ」というチャンスにもシュートが決められませんでした。コーチからは罵声が浴びせられました。最初のうちは、彼もコーチと一緒にイライラしていましたが、コーチの怒鳴り声を聞いていくうちに、思ったそうです。「自分もあのコーチと同じで、日頃、晃がちょっと失敗しただけでも、すぐイライラしたり叱ったりして、かわいそうなことをしてきたな」と。さて、試合は3:0で負けました。

でも帰り道、彼は息子に言ったそうです。「今日は残念だったな。それにコーチにあんなふう言われたら、傷つくよな。でも、晃は誰よりも頑張ってたよ。それは、お父さんがいちばん良く分かってるから、もう、くよくよするな」

この日以来、彼と晃君の間には、今までになかったような心のつながりができたのです。

## 成績に関係なく

子どもは、自分の能力や成績に関わらず、無条件で愛情を注いでくれる存在が必要です。そういう存在がいてくれれば、子どもたちはグレたり非行に走ったりしないものです。

ある父親が、息子の省くんの少年野球の試合を見に行ったときのことです。省君は、試合が始まる前にお父さんのところに来て言いました。「ねえ、お父さん。今日、僕がホームランを打ったら千円くれる?」お父さんは、いきなりの要求にちよつと戸惑いながらも、言いました。「分かった、ホームラン打ったら千円あげるよ」と。省君がまた言いました。「じゃあ、ホームランじゃなくてヒットだったら?」お父さんは言いました。「いいよ。ヒットでも千円あげるよ」。省君は、まるでプロの選手が契約を取った時のように喜んで、チームのいるベンチに戻って行きました。試合が始まり、その日4回バッターボックスに立ちました。結果は、ホームランはおろか、三振と平凡なフライだけで、ヒットも打てませんでした。試合が終わって家に帰る途中、省君はがっかりした表情を隠せませんでした。

でも、父親は省君に言いました。「今日はよく頑張ったな。ヒットが打てなくてがっかりしてると思うけど、次の試合には打てるよ。それにヒットが打てるも打てなくても、お父さんにとつて君は大切な子どもなんだから」

